

皇女征服



R18
ADULTS ONLY







なあに、継承権など
帝国議会ごと
私自らが乗り出して
掌握してしまえば
いいだけのことだ
わざわざ傀儡を
用意するまでもなく、な

その場合もはや
お前たちは用済みだ
お前の弟である
ユアンは処刑され――

お前自身は……
女に生まれて
きたことを
後悔することにな
るだろうな

な……

そこでもう一度
先程の確認だ

どうするかね？

……わかり……
……ました……



それではオルネリーゼよ
自らの言葉によって
私への恭順の意を
示したまえ

帝国第一皇女
オルネリーゼ・
ユル・ウリアは……
公爵閣下への
感謝の意を
示すとともに

この身体……を……
閣下に捧げる……
ことを……神に……
誓い……ます……

まだ……何も知らない
未熟者ですが……
公爵閣下の教育のもと……
どうぞ……指導……鞭撻……
よろしくおねがい……
いたします……

ハハハ、いいだろう
オルネリーゼ！
その覚悟に免じ
お前との約束
私も果たすことを
誓おうではないか

ありがとう……
ございます……

ほお……

ドレスの上からでも
分かっていたことだが
歳の割に立派な
モノではないか

………
お褒めいただき…
ありがとうございます…
ございます………

うむ、すべて脱いだら
こちらに来るがいい
オルネリーゼ

我が寵愛を
授けてやろう

全く…
こんないやらしい
身体に育ちおって…
毎日会う
王宮騎士たちには
目の毒だろうに

そのような…
ことなど…

そこ…あつ！
だ、だめ…です…
摘まないで…

ひうつ

ビクッ

ゼン
ズン

ムニゅ

無自覚とは
罪な女だなお前は
だからこそ
穢し甲斐がある
といえるが

反応もいい
これは本当に
楽しめそうだな

お、おじ…さま…
なにか背中…
当たって…
こ、これは…

フフフ…
怯えなくてもいい
それがこれからお前を
可愛がってやる
モノなのだからな

せっかくだ
まずはこの胸と
その可愛い口で
奉仕をしてもらう
とするかな



んっ!
んんっ!

ひと—んぐっ!

お前には男を誑かす
才能がある
そんな淫乱娘には
しつかりと男の味を
教え込まないとな

さあ受け取るがいい!



いかがが…
でしょうか…
ん…ちゅ…

まったく…
初めてとはとても
思えんな

どうせ一人で
練習でもして
いたのだろう?
この淫乱娘が



んん—っ!!
ぷはっ!

あっ!やあ…
顔に…いやあ…

マーキングだ
塗り込んでやるからな
口の中のものも
ちゃんと飲むんだぞ

ん…く……
ケ、ケホッ
ケホ、ケホッ!

ふっ、飲むのは
これからの勉強だな
それではそろそろ
お前の初めてを
味わうとするかな

は…い……



ククク、こんな姿
帝国の騎士共が
みたら発狂する
かもしれんな

自分の崇める主君が
雌犬のような格好で
男のモノを要求
しているのだからな

貴方が…
こうしろと…
言った…のに…
う、ううう…

フフフ、そろそろ
虐めるのは
やめておくか

こう…でしょうか…



私のモノは
大きいからなぞ
力を抜くんだぞ

私は無理やり
固いモノを
こじ開けるのも
好きなのだからな

わかり…ました…

あ—おじさまが…
入って…く…う…
あ…あ—ああつ!

う、あああつ!

ひぐっ！
おじ…さま…
もう少し…
やさし…く…

おお、すまんすまん
処女にしては
具合が良くて
思わず娼婦のよう
に扱ってしまったよ

ククク、しかし
やはり母娘だ
な
膣の具合も
よく似ている

酷い…

…えっ…？
そ、それは
どういう…

あいつはなかなか
奥手だったから
色々教えて
やったものだよ

勿論処女も
お前と同じように
私が貰ってやったぞ

お前の母であるアンリとは
お前の父と結婚するまでは
私が可愛がつっていたな

う、うそ…
母と貴方は
兄妹じゃ…

その通りだ
あいつは幼い頃から
私のものだったのに
まさか皇子に
寝取られるとは思
ってみなかったぞ

そんな…
お母様…

ケダモノ…
貴方は…本当の…
ケダモノ…です…

フハハ、そのとおりだ
しかし、アンリもお前も
その家の淫蕩の血を
引いているのだぞ

そしてアンリ亡き今
まだ幼い弟より先に
まずお前がこの家の
次代を宿さねばな

え…
そ、そんな…
ま、まさか…!

お、叔父様?
や、やめて!
やめてくださいっ!

いくぞ!
アンリの娘よ
我が種で
孕むがいい!

だがしかし私の元には
戻ってきたからには
もう手放しなど
しないからな

孕めッ！
オルネリーゼ！
我が種で孕めっ！

おじさまっ！
いいやあああっ！
うあああ——！！

ああっ！



妹であるアンリも
良かったが以上
お前はそれぞ

やはり血が近い
というの相性
の良いうない

我が娘——
オルネリーゼよ

う……そ……
叔父……様が……お父……様……
なん……て……そんな……の……
う……そ……う……そ……

フフフ……
二人きりのときは
父と呼んでも良いぞ

そして約束通り
これからお前たちは
「家族」として
支えてやるとしよう

ND……

ND……

お前の弟と——
これから
生まれてくる
子供達とともにな

あ……あ……
あ……あ……

その後—
グレアム公の後援を
得たユアン皇子は
若千10歳にして
皇帝に即位した

うっ—
もう駄目だっ!
皇女様っ!

おお、こんなに大量に
若いですなあ
皇女様も中出しされて
満足そうですね

あつ…
あ…あ…

ふう…
まさかグレアム公主催の
皇女様との懇親会とは…
こんな内容だったとは…
もつと早く参加して
おけばよかったですよ

ふふふ、これで貴方も
私達のお仲間ですな
さあ皇女様も
新しいお仲間に
挨拶をなさっては?

それには皇女様が
陰ながら活躍し
諸侯たちを説得
したのだと
噂されていた

当初は諸侯たちからの
反発が予想されたが
不思議と大事には
至らなかった

本日は…新しいお客も含め
集まっていたいただき…
ありがとうございます…
誠心誠意…皇族として…
おもてなしいたしますので…
どうぞ…この身体…
存分に…堪能ください…

さすが皇女様
ご立派ですぞ
それでは皆さん
皇女殿下のご厚意に
甘えましょうか

そういえば
今更なのですが
さんざん皇女様の
宮内に出していますか?
大丈夫なのではないですか?

ん? ハハハ!
本当に今更ですな
大丈夫ですぞ
皇女様はすでに
グレアム公自ら
仕込んだという
話ですから

へえ…
さすがですな
あの御仁は…

まあ私達はその
おこぼれに
あずかる程度に
楽しみましょう

ええ

弟の皇帝即位から程なく—
姉である皇女は
妻を亡くしたばかりの
グレアム公爵の後妻として
嫁ぐことになった

その腹は既に大きく
明らかに婚姻以前からの
関係が推測されたが
それには誰一人い
なかつた

皇女征服

初版発行：2023/12/31

発行元：セブンデイズホリディ

著者：古我望・篠川あるみ

連絡先：7dh@howlingmine.com

印刷：プリントネット株式会社

2023 SEVENDAYSHOLIDAY